



# JAPAN HOUSE

---

JAPAN HOUSE フォーラム  
プログラム

# JAPAN HOUSE フォーラム

日時 2016年3月25日 | 金 | 16:00—19:30

場所 国際文化会館 東館地下1階 (106-0032 東京都港区六本木 5-11-16)

主催 外務省

現在、国際社会では、飛び交う情報量が飛躍的に増大し、伝達手段もますます多様化しています。このような状況を背景として、諸外国も広報文化外交に投入するリソースを増加させる中で、このたび「オールジャパン」の対外発信拠点として、世界主要都市に JAPAN HOUSE を設立することとなりました。このプロジェクトのキックオフに伴い、皆さまとともにジャパン・ハウスのあり方を考えていきたいと思えます。本フォーラムは3パートに分かれており、パート1では、ジャパン・ハウス総合プロデューサーや各拠点での事業に関わっているメンバーから、事業コンセプト及び方針、事業全体の目指す方向性についての発表を行い、パート2・3では、様々な分野の方々と一緒に、日本の魅力の発信のあり方について議論をしていきます。

## Part 1

16:00 ~

### JAPAN HOUSE 活動の質について

—いかに知らないかに気づいてもらうか—

パネリスト 谷川じゅんじ | スペースコンポーザー  
原 研哉 | ジャパン・ハウス総合プロデューサー

モデレーター 林 千晶 | ロフトワーク代表



谷川じゅんじ Junji TANIGAWA

スペースコンポーザー。1965年生まれ。2002年、空間クリエイティブカンパニーJTQを設立。「空間をメディアにしたメッセージの伝達」をテーマに、エキシビション、インスタレーション、商空間開発など、デザインと機能の二面からクリエイティブ・ディレクションを行う。主な仕事に、パルループル官装飾美術館 Kansei 展 (2008)、平城遷都 1300 年祭記念薬師寺ひかり絵巻 (2010)、GOOD DESIGN EXHIBITION (2012-2014)、MEDIA AMBITION TOKYO (2013-2016)。2013年、Page One PublishingよりJTQ 10周年記念のアーティストブック「Junji Tanigawa, The Space Composer」を刊行し、D&AD 賞に入選。



原 研哉 Kenya HARA

1958年生まれ。産業文化の可能性を可視化し、新たな覚醒を生み出すデザインを展開。2002年より無印良品のアートディレクター、2012年には代官山蔦屋書店のアートディレクションを担当。竹尾ペーパーショウにおいては「RE DESIGN」「HAPTIC」など、また異なる展覧会においては「SENSEWARE」「HOUSE VISION」など、時代の価値観を更新していくキーワードを提起するプロジェクトを多数手がける。2009-2011年に北京・上海で大規模な個展を巡回、活動領域を世界に拡げている。近著「デザインのデザイン」(岩波書店)、「白」(中央公論新社)は各国語に翻訳され多くの読者を持つ。



林 千晶 Chiaki HAYASHI

1971年生まれ、アラブ酋長国育ち。早稲田大学商学部、ボストン大学大学院ジャーナリズム学科卒。花王を経て、2000年にロフトワークを起業。Web デザイン、ビジネスデザイン、コミュニティデザイン、空間デザインなど、ロフトワークが手がけるプロジェクトは年間550件を超える。デジタルものづくりカフェ「Fab Cafe」、素材に向き合うコワーキング施設「MTRL」を運営。MIT メディアラボ 所長補佐、グッドデザイン賞審査委員などを務める。2015年「株式会社飛騨の森でクマは踊る」代表取締役社長に就任。

## Part 2

17:15 ~

### JAPAN HOUSE 世界を知るアーティスト、クリエイター視点から —こうあってはいけない、こうあって欲しい日本の魅力—

パネリスト 青木涼子 | 能アーティスト  
齋藤精一 | Rhizomatiks / Creative Director & Technical Director  
杉本博司 | 現代美術作家  
西島清順 | そら植物園 代表  
原 研哉 | ジャパン・ハウス総合プロデューサー

モデレーター 橋本麻里 | ライター・エディター



青木涼子 Ryoko AOKI

東京藝術大学音楽研究科修士課程修了(観世流シテ方専攻)。ロンドン大学博士課程修了。世界の主要な作曲家と共同で、能と現代音楽の新たな試みを行っている。2014年CD「能×現代音楽」リリース。世界各地の音楽祭に多数招待されている。2013年マドリッド、テアトロ・レアル王立劇場にG・モルティエのキャストイングのもと、W・リーム作曲オペラ《メキシコの征服》マリンチェ役で好演。平成27年度文化庁文化交流使。



齋藤精一 Seiichi SAITO

1975年神奈川県生まれ。建築デザインをコロンビア大学建築学科(MSAAD)で学び、2000年からNYで活動を開始。2006年にライゾマティクスを設立。建築で培ったロジカルな思考を基に、アート・コマーシャルの領域で立体・インタラクティブの作品を多数作り続けている。2009-2015年国内外の広告賞にて多数受賞。現在、株式会社ライゾマティクス代表取締役、京都精華大学デザイン学科非常勤講師。2013-2016年D&A、カンヌ国際広告賞、Good Design Award等の審査員。2015年ミラノエキスポ日本館シアターコンテンツディレクター、六本木アートナイト2015にてメディアアートディレクター。



杉本博司 Hiroshi SUGIMOTO

1948年東京生まれ。1970年渡米、1974年よりニューヨーク在。徹底的にコンセプトを練り上げ、8×10インチの大型カメラで撮影する手法を確立。作品は世界中の美術館に収蔵されている。古美術、伝統芸能への造詣も深い。近著に『アートの起源』(新潮社)、『趣味と芸術—味占郷』(ハースト婦人画報社編／講談社)。2009年高松宮殿下記念世界文化賞、2010年紫綬褒章、2013年フランス芸術文化勲章オフィシエ等。



西島清順 Seijun NISHIHATA

幕末より150年続く花と植木の卸問屋、花字の五代目。日本全国、世界数十カ国を旅し、収集している植物は数千種類。日々集める植物素材で、国内はもとより海外からの依頼も含め年間2,000件を超える案件に応じている。2012年、ひとの心に植物を植える活動「そら植物園」をスタートさせ、植物を用いたさまざまなプロジェクトを多数の企業・団体などと各地で展開、反響を呼んでいる。



橋本麻里 Mari HASHIMOTO

日本美術を主な領域とするライター・エディター。明治学院大学非常勤講師。著書に『日本の国宝100』(幻冬舎)、『京都で日本美術をみる[京都国立博物館]』(集英社クリエイティブ)、『変り兜 戦国のCOOL DESIGN』(新潮社)。共著に『SHUNGART』(小学館)、『運慶 リアルを超えた天才仏師』(新潮社)ほか。編著に『日本美術全集』第20巻。高校美術教科書(日本文教出版)の編集・執筆、またNHK News Webの第4期ネットナビゲーターを務める。

## Part 3

18:25 ~

### JAPAN HOUSE 日本の津々浦々をつなぐ視点から

—日本を体験してもらいたい切り口—

パネリスト 梅原 真 | デザイナー  
楠本修二郎 | カフェ・カンパニー代表取締役  
國定 勇人 | 新潟県三条市市長  
林 千晶 | ロフトワーク代表  
原 研哉 | ジャパン・ハウス総合プロデューサー

モデレーター 松原 亨 | Casa BRUTUS 編集長



梅原 真 Makoto UMEBARA

デザイナー。高知市生まれ。一次産業がしっかりしない国はユタカではない。地域の「漁業」「農業」「林業」に、すこ〜〜しデザインをかけ合わせ、「あたらしい価値」を作り出すことによって、その土地が持つ可能性を引き出し風景を持続させるコトをシゴトとしている。「ナニガユタカナコトナノカ」「地方はジブンで考えろ!」をテーマに活動している。武蔵野美術大学客員教授。



楠本修二郎 Shujiro KUSUMOTO

2001年、カフェ・カンパニーを設立し、代表取締役社長に就任。「コミュニティの創造」をテーマに現在、国内外で約100店を運営する他、地域活性化事業、商業施設のプロデュース等を手がける。2010年からはクールジャパン関係の政府委員を歴任。(一社)東の食の会代表理事/(一財)Next Wisdom Foundation 代表理事/東京発の収穫祭「東京ハーヴェスト」代表理事を務める。



國定 勇人 Isato KUNISADA

1972年生まれ、1997年一橋大学商学部卒業後、当時の郵政省に入省。大臣官房総務課審議室、放送行政局放送政策課、総務省情報通信政策局 放送政策課政策係長、大臣官房総務課 総括国会第三係長を経て、2003年総務省より三条市に出向。三条市総務部 参事兼情報政策課長、市長公室長兼総務部参事、総合政策部長を歴任し、2006年情報通信政策局 地域通信振興課課長補佐として総務省に復職。同年11月より三条市長を務め、現在3期目。



松原 亨 Ko MATSUBARA

1967年東京都生まれ。1991年早稲田大学政治経済学部政治学科卒業、マガジンハウス入社。男性ファッション誌『ポパイ』の編集に携わり、ファッション、音楽、インテリアなどを担当。2000年より月刊『カーサブルークス』創刊に参加。「ケーススタディハウス」「イサム・ノグチ」「安藤忠雄とメキシコへ。ルイス・バラガンを巡る旅」「そろそろインドに呼ばれていませんか?!」「建築家が教える環境の授業」「アップルは何をデザインしたのか」など、幅広いテーマの特集を編集者として担当。2012年同編集部編集長に就任。